

令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告

【水は動く】

日常的に行っている水遊びだからこそ、やってみたいことを思いつき工夫する姿があります。容器に入った水を揺らしたり棒でかき回して眺めていて「水って動くんだね。」と言った子どもの気づきに注目しました。思い思いに遊びながらそれぞれの探求心が影響し合う様子を見てテーマとし7月から9月まで遊びを展開していきました。広い場所で素足で水の感触を感じ安全にかつ集中して遊べる環境を整えるために、屋外プールの底を熱くならないコルクチップに変え、水のタンクや雨どいなどの材料を揃えていきました。興味をもつポイントはそれぞれで、「(タンクのコックで)どうして止まるの?」「(土に染み込んで)水がなくなっちゃった!」「(雨どいは)重ねるとこぼれないよ。」思いついたことや経験から知っていることを伝え合い、数人で集まってこうした方がいいと相談して面白くしたり、自分がやったことのないことや高度なことをしているのを観察しなめて「ピタゴラススイッチを作ってるの。」と一人でじっくり取り組んだり、「濁った水を透明にしたいんだけどそうすればいいと思う?」などと保育者にアイデアを求める姿もありました。

水という素材は力を加えることでその形状も見え方も変化します。「これとこれと同じ(量)かな?」「ここを押えてないと(水の)重さで動いちゃうよ。」などと友だちと一緒に試行錯誤する場面も多く、正解が分かりづらく間違いがないことで予想を裏切られる面白さも経験できたように感じます。やってみたいことを実現する面白さを体感し、今度はこれをしてみたいと意欲が継続する活動となりました。



【海の生き物】

海の生き物に興味があり、年長児クラスが自分たちで園内で水族館を作る中で本物に対する関心が高まる姿がありテーマとしました。7月に年長クラスが園内に水族館を作り、他のクラスを招待するなどして楽しむ姿がありました。自分で調べることができるよう図鑑や本を用意し、自由に描いたり作ったりできるよう、廃材に加えて軽い粘土や長いカラーポリロールも用意し、数人から始まった遊びがクラス全体、他クラスを巻き込む活動が広がりました。秋に遠足の行き先を子どもと話し合った際に水族館が候補に上がるなど海の生き物への興味は持続している姿がありました。遠足の行き先は動物園になったのですが、友だちと一緒に本物を見ることでの気づきや学びがあると考え1月に移動水族館に来てもらいました。じっくり観察し実際に触れ専門家に質問をして、新たな発見と学びの機会となりました。「ヒトデの脚はどこか知ってる?」「ウミガメは何歳生きるのでしょうか?」と知っている知識を友だちに伝えたり教えてもらうことを喜ぶ姿、もっと知りたいという知識欲が高まってきました。友だちと協力し合って調べたり作ったりすると「一人よりもすごいことができる!」ことを実感していた子どもたちです。自分たちだけで判断できないことを「水族館はすごい大きいから図書コーナーを使おうよ。」「ウミガメは海に住んでるでしょ。海にはさすがに行けないよね。」と保育者に相談しながら継続した活動となりました。自分たちでイメージしたり考えたり調べたりした経験があってから、実物を見ることができたので、想像力や思考力等を使って友だちと一緒に探求できたと感じます。実物を観察するとは見るだけでなく、匂いをかぎ触ることで「ヒトデってぐにゃとするけどしっかりしてるんだね。」「ウミガメって思った通り大きい。わかめを食べるのは人間と一緒にだね。」と自分の生活をつなげる思考も興味深く実体験として心に残る活動となりました。